

# これならできる！ ラクラク・小力 野菜づくり

## 作業がしやすい 畑の設計

### 変形畑を無理なく使う

畑は空けないで隅から隅までつくるとというのが常識ですが、作業の効率からいうと必ずしもそうとはいえません。たとえば耕うんの際に方向転換する場所の幅（ギリギリ30cm）をもつ20cm広げてみてください。すると、作業の危険がなくなり、驚くほど速くラクに方向転換ができます。変形畑でもっと機械を使いやすくするには、なるべく一辺の長い長方形に近づけて使うこと。そして残つ

た不正形な部分は、小さな畑として別に活用するのです。出荷用の野菜は大きな畑に作付けて、切り離れた小さな畑には自家用野菜や薬草をつくったり、果樹を植えたりするとよいでしょう。

### 斜面畑は斜面にそってウネ立て

斜面にある畑は土壌浸食で土がどんどん流失していきます。これを防ぐには、等高線に沿ってウネをつくるのが常識とされます。しかし傾斜度の高い畑だと、車輪が滑ったりして機械でウネ立てするのに一苦労。転倒事故も起こりやすくなります。

しかも、せっかく苦労して立てたウネも大雨が降ると、たまった雨の力で押し流されやすく、その修復も簡単ではありません。そこでお勧めしたいのが、思い切って等高線と垂直にウネを立てること。こうすると当然耕うんも上下の動きとなり、ラクなうえに安定性が増し、とても安全です。しかも大雨が降っても水の力を逃がしやすいために、土壌の流失も思いのほか少なくてすみます。

### 通路は思い切って広くとる

カボチャやスイカなどのつるも

のをつくると、整枝してもいつの間にか畑いっぱいになる。通路が広がり、通路まで伸びてきます。これではツルや葉を踏まずに作業するのに一苦労です。

作業を効率よく行うには通路を広く（60cm〜1m）とり、通路と反対側にツルを伸ばします。すると通路に障害物がなくなり、動噴のホースを引っばったり、収穫用の運搬車を動かしたりがラクです。スイートコーンで何ウネもつくる場合、4条ごとに通路を広くとると、作業が驚くほどラクになります。しかも収量はほとんど変わりません。

